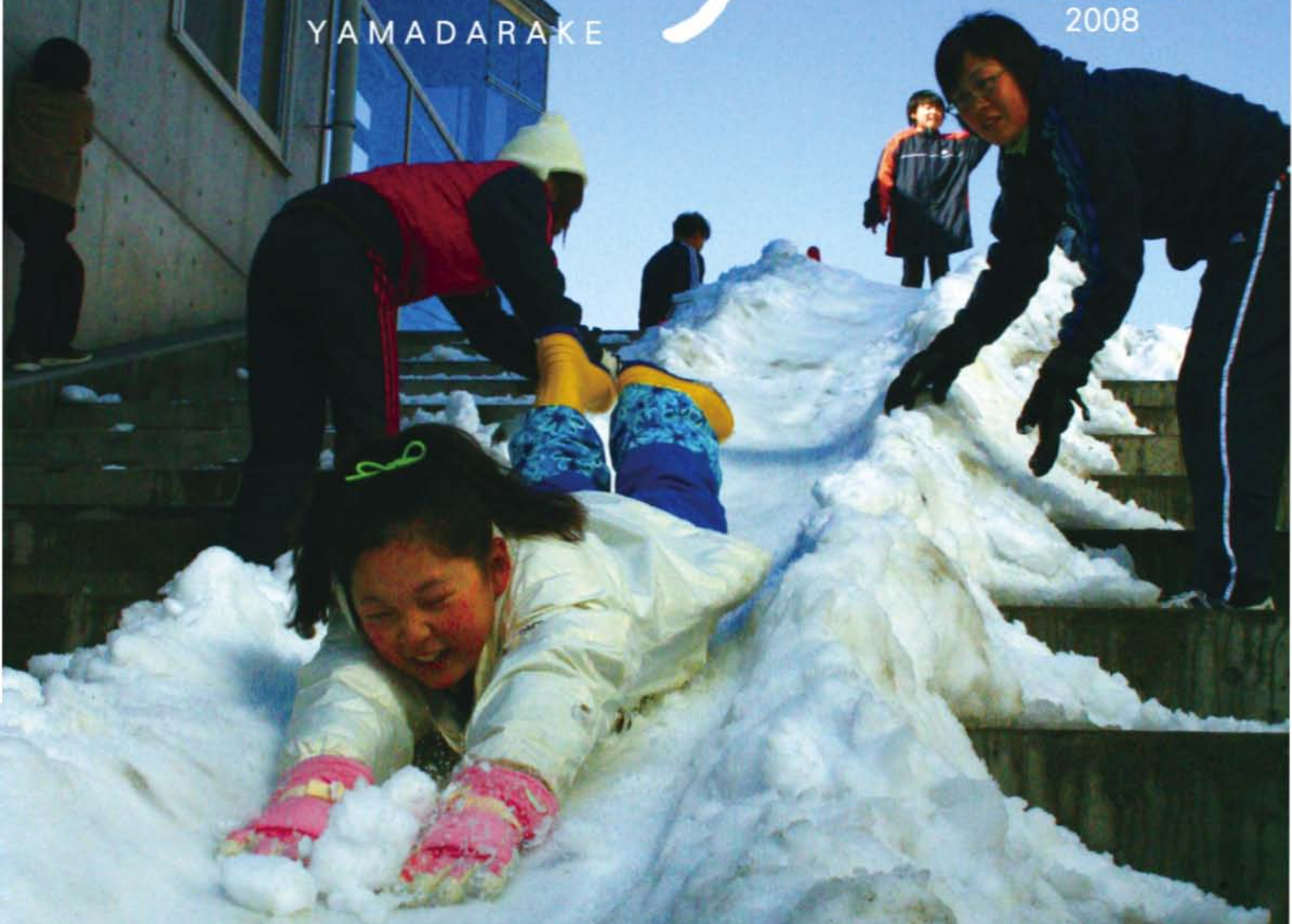


やまたらけ

YAMADARAKE

APRIL
No.28
2008



山の教育事情 ～早川北小学校の挑戦～

早川北小は、早川に2つある小学校の1つ、全校児童16名の小規模校だ。早川町にはもともと六つの小学校があった。昭和30年代には一万人を数えた早川町の人口は、電源開発の終焉と農林業の衰退により、現在では一五〇〇人に減少。それにもない子どもの数も減少し、学校の統廃合が進められた結果、現在は小学校2校、中学校1校のみが残る。

取材に訪れた2月のある日、校舎わきの階段に巨大な雪の滑り台が作られていた。順番にすべり台を滑る子ども達と、それを見守る先生たち。実は、大雪が降った数日前、児童と先生が総出で作った滑り台だという。人数が少ない分、先生と児童が一緒になって、遊び、遊ぶのが、早川北小の大きな特徴だ。

山に囲まれ、子ども達の笑い声が響く早川北小。しかし、さまざまな教育問題と無縁なわけではない。学力、体力、なにより人とともに生きていく力をどのように育んでいくか。小さな学校だからこそ、そのような課題が先生、親・家庭、そして子ども自身にシビアにつきつけられる。

早川北小が直面する課題と挑戦を取材した。



子ども一人ひとりとの関係を大切に話す出井(でい)校長先生。残念ながら、4月に異動となり北小を離れた。

子どもとじっくり向き合う

早川北小の子ども達は、どのような学校生活を送っているのだろうか。2月のある日、見学に北小を訪れた。

北小は、全校児童16名という小規模校としては珍しく、単級で授業が行われている。新しい校舎は、大きな空間をパーテーションで区切って学年ごとの教室にする、いわゆるオープンプランスクールが特徴だ。それぞれのスペースには学習机のかわりに大きなテーブルが一つ。

そこに児童が並んで座る。4年生の教室では、保坂先生が児童と並んでテーブルに座り、一緒に教科書を読んでいた。一人しかいない1年生の教室では、遠藤先生が児童と向かい合う形で対話をしながら一緒に目標を書きつけている。時には向かい合い、時には横に座り、先生の視線が、子どもの視線と同じ高さになる。

3年生の教室では算数の授業中だった。二人の児童がテーブルに並んで座り、安藤先生が黒板の前に立って、筆算の仕方を



壁が全くない。隣の授業の声も聞こえてきそうだが、集中すれば大丈夫!

を教えている。「一の位を足して、繰り上げるけど、十の位はどうやって計算すればいいかわかる?」先生の問いかけを聞きながら、児童が自分のボードで計算をする。わかった!と声をあげたり、こうすればいいんだよ、ともう一人の子に教えてあげたり。「そう、よくわかったね!」投げる言葉が子どもに直接届き、子どもの言葉を先生が拾える近さがある。

学校を案内してくださった出井寛校長先生は、先生と子どもとの距離が近い小さな学校だからこそ、「子ども一人ひとりとちゃんと関わることが大事」だと語る。少人数校では人間関係が濃厚になるなかで、子どもにとっても教師にとっても逃げ場がないというつらさがある。しかし、時に苦しくても、子どもとじっくり向き合うことが重要だということも先生方と話しているという。

増穂小から転任してきた5年担任の横山智子先生は、早川北小にきた当初、少ない人数の学級運営の仕方に戸惑ったそうだ。初めての学校だった増穂小で

は30人ほどの学級を受け持ち、2年たつてやっと30人規模の学級経営の仕方がつかめてきたころ、早川北小に転任になり、今度は二人の学級を受け持つことになった。「ひとりの子どもに対してどこまでもやってあげられる。だからこそ逆にどこまでやっていいのかなということを常に考えさせられます」。人数が少ない分、一人ひとりの子どもと深く関わり合うことができる一方で、どこまで踏み込んでいくか、どのように子どもと向かい合っていくのが、先生たちは日々試行錯誤を重ねているといえる。

一人ひとりが主役

全校でイベントに取り組み、子ども達一人ひとりが大きな役割を担って活躍することも、小さな学校ならではの特色だ。北小は、6月のスナッグゴルフの全国大会出場、放課後のフィットネスクラブでの活動、スキー教室等、一年を通してイベントが多い。この日は、あまった

お米を使った餅つきをしているところだった。

「いつも何かイベントの準備をしている北小だが、その中でも最大のイベントが、音楽発表、体育発表、劇発表からなる10月の「わらべどんぐり祭り」だ。今年は、音楽発表では児童全員による合唱、合奏、体育発表では一学期から練習した北小体操や、早川町のダンスチーム「酔茶晴組」との「ダンシング武田節」共演、全校児童による「輪車」「風車」が披露された。

11月、町の文化祭で地域の人を前に再演された北小児童による民話劇、「武士の墓」を見学した。低学年の子ども達が色とりどりの着物を着て登場、「ちゃりきだま」で遊んでいると、中学年、高学年の子ども達扮する大人がやってきて、みなで味噌造りを始める。やがて、早川の味噌をめぐって早川集落と黒桂集落の大人が対立すると、6年生の二人の児童扮する武士が、それぞれの集落を代表して決闘。二人の武士の死によって、人々が和解に至るというお話だ。全校参加の民話劇は、取材、民話の決定、台本作りまで先生の力を借りながら児童たちが作っているという。

民話劇の上演は、北小の前身である三里小の時代からずっと続いている伝統だ。5月から子ども達自身で地元の人に



餅つきの風景。ついた餅は大根おろし、きな粉、エゴマで和えて食べた。



民話劇で二人の武士の決闘シーン。会場の前後を使う凝った演出。

山村留学という選択

こうした取り組みを続ける早川北小学校では、近年、自然の中で育つ環境を求めて都会からやってくる山村留学の児童を受け入れている。都市部から家族で早川町に移住し、現在は二人の子どもが早川北小に通う足立さん一家に、早川北小に入学を決めた理由を伺った。

足立さんが一家で早川町に移住したのは5年前。現在、北小に通う長女とも与ちゃんが小学校に入学するときに、山村留学の制度を使って家族全員で早川に移住を決めた。早川北小にとって初めての山村留学だった。その年、入学した新生生はとも与ちゃん一人。初めて新生生ゼロの年になるかもしれない。

足立さん一家は元々、家族での移住を目的として、引っ越し先を探していたという。いくつかの場所を調べるうち、住居を提供して受け入れてくれる山村留学の制度を知り、子どもがいると地域の人との関係を築きやすいということもあって、制度を利用した移住を決めた。足立さんが8歳まで育った東京八王子は今ではすべて造成地になっているが、当時は家の近くには山も川も田んぼもあって、学校の行き帰りには自然の中とにかくよく遊んだという。だから、自分の子どもが都会の街中で自然や生き物に触れずに育つことに非常に抵抗があった。それが、親子で自然の中で暮らすと考えた大きな理由だったそう。

自然の中で子どもを育てることができるとい面がある一方で、親の立場からみた小さな学校の大変さを足立さんはお話してくれた。少人数の学校だから対人関係で抵抗がないとか、学力的に不利だという言い方を耳にすることもあがあるが、足立さん自身はそうは心配していないそう。北小に通う子どもを見て

いると、確かに目が行き届いていると感じる。小さな学校で難しいのは、競争がないということよりもむしろ、一人ひとりに目が届く分、いい加減さがなくなることだという。たとえば宿題。「私なんか、子どもころは宿題をきちんとやった覚えがないですよ。それでも大丈夫だったけど、人数が少ないと、宿題やらないわけにもいかないからねえ(笑)」。私の子どものころは、授業が終わってから学校でたっぷり遊んで、帰ってきてからまた遊びに行つて、時間も気にせず暗くなつたから帰るとい感じでした。それで帰ったらやっぱり遅いって叱られてね。すごく時間があつたと思うんですよ。そんなにいい加減さとか余裕がもう少しあつてもいいと思う」。

少子高齢化が進む早川町では、一人ひ



山村留学第1号の足立さん一家。長女のとも与ちゃんは、4月から6年生。今では半数近い児童が、山村留学でやってきた子ども達だ。



「地域のお宝発見」の授業風景(写真上、中)。ゲストは、地元の猟師さん。この猟師さんの娘も、昨年まで北小の児童だった。写真下は、地元に移り住んできた芸術家・木村さんの指導で、こもれびのランブシェードづくり。



北小ブログ 「わらべ日記」

先生方は日々の学校の様子をブログに書き綴っている。一度読んだら、北小ファンになること間違いなし！

<http://hayakita.seesaa.net/>

とりの子どもにかかる期待と負担が大きくなるが、これも日本の縮図だという。「都会の子なんか、帰ってから塾行つて、9時10時に電車乗つてたりするじゃないですか。大人より働いているというか。大人になつたらいやでも働かなきゃいけないのだから、子どものころは遊べばいいのって思いますね」。

「ほんとは、雑草みたいになつておくのがいいと思う。そうすれば自然に強く育つていくから。それを手助けするのが、親の役割だと思う。世の中に、本当に必要のない草、いらぬ草なんてないんだから」。足立さんの言葉には、子ども達に自分の力で強く育つてほしいと願う親の思いが込められている。

■ たくさんの人に見守られて

たくさんさんの経験を積んで強く育つてほしいというのは、先生たちの願いでもある。早川で育つた子ども達は、中学校を卒業すると、高校進学や就職で甲府をはじめとした町外に出ていく子どもが多い。将来、大きな世界に飛び込んでいった時に、委縮することなく力を発揮できるよう、子ども達が経験を積める様々な機会を作つていこうと考えている。民話劇もその一環だ。高学年が低学年をリードし、まとめていく。低学年もメンバーの一員として、自分の役割を考えて行動していく。これが、必ず力になるという。

また、早川北小が力を入れている地域との連携事業も、学校の中だけではなく、地域の様々な人との関わりあいの中で経験を積んでほしいという考えから出発している。月一回の「お宝発見」授業では、地域に住む様々な分野の名人が講師となつて子ども達に授業をする。この3年間で、辻町長、野鳥公園の村田さんをはじめ、25人の方が北小を訪れた。その他にも水泳の授業や、医療関係のレクチャー、親子でのランブシェード作りといった企画の講師として、地元に住む人たちに積極的に授業に参加してもらっているそう。このように、北小の子ども達は、一年を通じて大勢の地域の大人と関わり学んでいる。

そのことを実感できるのが、卒業式だ。北小では、数年前から卒業式を地域に開放している。お世話になつた地域の方々へ、卒業を迎える6年生が招待状を出す。一昨年は、一人の卒業生のために、一〇〇人以上が来てくれた。今年も、二人の6年生が卒業していった。地域の人に囲まれての卒業式は、彼女たちが様々な人に見守られて育つたことの何よりの証だろう。

子ども達は、どのような環境で育つたとしても、そこでの経験を糧にして



▶ 給食を食べるのも全校で。学校全体が一つの家族のよう。

※取材は平成20年2月に行いました。先生方の受け持ち学年等は、昨年度のものです。

いつかは一人で生きていかななくてはならない。早川北小では、子ども達一人ひとりが、自分の力で物事に取り組み、それを学校、地域、家庭の様々な人に見守っている。早川北小学校での生活が、子ども達一人ひとりにとって、将来必ず大きな力になるのだらうと取材を通じて思った。(阿部幸)

早川北小学校周辺の アウトドアスポット

十谷峠～御殿山～富士見山

十谷峠から稜線沿いに御殿山、富士見山へ向かうルートは、アップダウンも少なく、比較的歩きやすい初心者コース。ブナ林なども広がり気持ちいい。御殿山、富士見山からは、富士山が眺められ、稜線からは所々で南アルプスの峰々が眺められる。



▲峠にある道しるべ。茂倉集落へも登山道が続いているが、歩かない方が無難。



▲富士見山の山頂から眺める富士山



▲御殿山からのダイヤモンド富士は、11月7日と2月4日に見られる。

黒桂河内川 (つづらごうちがわ)



野鳥公園の横を流れる早川の支流。雨が降っても濁りが少ない、きれいな沢。本流との合流点付近は水深も浅く、比較的安全に遊べる。ただ、河原でのキャンプやたき火などは、基本的に禁止。魚を捕まえるには、遊漁券の購入が必要。川遊びだけなら野鳥公園の入園料は必要ないが、セットで遊ぶことをオススメ。

奈良田・西山温泉

野鳥公園 ☎0556-48-2288



鳥を中心に、早川町の自然を紹介する施設。要相談で、自然に詳しいスタッフがネイチャーガイドもやってくれる。

■営業時間/9:00～17:00 (火曜定休)
■料金/【入園料】大人400円、小人200円、【ガイド料】人数、時間等により要相談

やまめびあ ☎0556-45-2378

釣りを中心に、家族で川に親しめるスポット。釣った魚を、その場で焼いて食べればもう最高。

■釣り【釣り堀】1時間1500円※竹竿、仕掛け、えさ付き、釣り放題【溪流】1日2500円※釣り道具は要持参

■バーベキュー/大人1000円、小人700円※食材以外(鉄板、網、木炭等)は、施設側で用意。



そば処
アルプス

早川中学校

硯の里キャンプ場 ☎0556-45-3256

雨畑湖を望む高台にある、気持ちのよいキャンプ場。バンガロー、炊事施設、アスレチック施設有り。キャンプファイヤーも可能。

■入場料/大人500円、小人250円(3歳以上、中学生未満)
■宿泊/利用時間14:00～翌10:00、バンガロー1棟5250円、テントサイト1張2000円(デイキャンプは利用時間10:00～14:00)、各種用具レンタル、薪や炭の販売あり。



【ホームページ】
<http://www.salps.net/user/papajaejae/>

LAND ROVER EX オートキャンプ場 ☎0556-20-5055

LAND ROVERと提携している町のオートキャンプ場。芝生に覆われた気持ちのよい空間。石窯の利用は無料(薪は有料)。

■営業時間/チェックイン13:00、チェックアウト10:00
■入場料/大人1000円、小人500円、ペット500円、宿泊(1サイト)電源なし2000円、電源あり3000円(ハイシーズンは+1000円)【ホームページ】<http://www.landroverex.com/>



旧・早川北中学校の校舎を利用した温泉宿泊施設。コテージがあり、そこでバーベキューができる(バーベキュー場だけの利用は不可)。

■コテージ利用/チェックイン15:00、チェックアウト10:00、料金は人数によって一人あたり2780円～5400円、その他についてはホームページ参照。

【ホームページ】<http://www.salps.net/user/hmisato/>



ヘルシー美里

☎0556-48-2621

早川町役場 ☎0556-45-2511

赤沢宿



南アルプスプラザ ☎0556-45-2600

赤い三角屋根が目印の、町のインフォメーションセンター兼物産販売所兼レストラン。ハム、ワイン、味噌、コンニャクなど町内の特産品やお土産が並ぶ。レストランでは、ハムやウイナーなど町の特産品も食べられる。

■営業時間/9:00～17:00(水曜定休 ※冬季は日曜)

早川旬の直送便

早川の春の味覚といえば

①早川の山菜の詰め合わせ

一年でこの時期だけ味わえるほろ苦くて香り豊かな山菜。まさしく山の恵みです。一年でこの時期にしか食べられない山菜を、ぜひ味わって下さい！

料金／1箱3,200円(本体2,300円+送料900円)

内容／500g

タラノメ、コゴミ、コシアブラ、ウド、ワラビ、フキ、ゼンマイなどの中からその時おすすめの3～4種類を詰め合わせ

発送／4月下旬以降、注文順に発送

締切／4月25日(金)

※代金は、商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振込みください。売切れ次第締め切ります。ご了承ください。

■注文・お問い合わせ先／やまだらけ編集部

電話／0556-45-2101(9:00～19:00)

ファックス／0556-45-2268(24時間対応)

メール／shop@joryuken.net(24時間対応)

いずれも、注文者氏名、住所、電話番号、お送り先氏名、住所、電話番号、商品名、数量をご連絡下さい。ファックス、メールでお申込の場合、折り返しご連絡いたします。3日経っても連絡がない場合は、お手数ですが電話でお問合せください。

単品でも
ご注文いた
できます！

山菜の王様

②タラノメ

天ぷらが最高。ホクホクとした食感がたまらない。天つゆもいいが、塩がおすすめ。



人気急上昇

③コシアブラ

コクのある味わいが特徴。天ぷらにして塩とレモンやかぼすで。おひたしもいい。



女性に人気

④コゴミ

くるくるとした形が可愛い。茹でてサラダ、おひたし、ゴマ和えに。もちろん、天ぷらでも大丈夫。



料金／それぞれ1箱2,300円

(本体1,400円+送料900円)

内容／タラノメ、コシアブラ300g、コゴミ500g

発送／4月下旬以降、注文順に発送

締切／4月25日(金)

■町のホットNEWS

野鳥公園とヘルシー美里が生まれ変わります。

4月から野鳥公園とヘルシー美里を、東京に本社を持つ(株)生態計画研究所が運営することになりました。この会社は、全国各地の類似施設で自然観察や環境学習を展開する、自然に関する専門家集団です。

野鳥公園でも、自然観察や環境学習のプログラムを精力的に展開していくとのこと。野鳥公園が、今まで以上に早川町の自然を気軽に体験し深く学べる場になっていきます。

みなさんも、今後の野鳥公園とヘルシー美里の取り組みにご注目下さい！

GWは、早川山菜祭りへ！

毎年恒例、5月3日は早川町最大のイベント「山菜祭り」が、早川中学校運動場にて開かれます。この祭りのメインは、山菜の直売。地元の人でとれた天然の山菜を各種取り揃えて、お待ちしております。

編集部ブースでは、会員証の提示が「やまだらけを見た」で、恒例の石臼挽きコーヒーを1杯サービスします！

■読者の声

●奈良田の「こんぼうす」に行ったことがあります。おそらくなっちゃんともお会いしていたのですね。レシピを見てまた奈良田に行きたくくなりました。(千代田区、Mさん)

●なっちゃんのレシピは奈良田ならではの郷土色たっぷりで本当に食べてみたいものばかり。当地では手に入りにくい材料もありますが、少し工夫して作ってみたいです。(四日市市、Nさん)

●奈良田の里ができたばかりの年に夫と二人で行きました。夏子さんの手料理をいただきに行きたくりました。(南アルプス市、Yさん)

●なっちゃんの教えてレシピに奈良田の風景が目に浮かんできました。私たち夫婦は早川が大好き！だって人情と景色のバランスがすばらしいから。今年はお忙しい夏子さんに時間を作っていただき、なっちゃんの料理教室をお願いしたいわ。(藤枝市、Kさん)

編集部：この他にも多数のお便りを頂きました。読者の皆さんから温かい声を多数頂いたことを、夏子さんにも伝えたところ、とっても喜んでらっしゃいました。やまだらけを見て、実際に奈良田の里へ訪れて下さった方もいらっしゃるようです。本当にありがとうございます！

■NEXT やまだらけ

29号特集(6月上旬お届け)

「親子で遊ぶ早川のアウトドア」

夏を前に、早川町で親子で気軽に遊べるスポットを紹介します。山を歩いたり川を泳いだり、大人も子どもも早川の大自然の中で思いっきり遊びましょう！

豪華賞品？が当たる

やまだらけクイズ！

6

問：早川北小学校には、都会の学校でもなかなか見られない、すごいスポーツ施設があります。それは、以下のうちどれでしょう。

- 答1、目指せメジャー！照明付き野球場
2、目指せオリンピック！温水プール
3、目指せワールドカップ！天然芝サッカー場

正解者の中から抽選で3名様に、無農薬栽培雨畑新茶をプレゼントします！

前回のクイズの正解は、1の「白旗史朗」でした。抽選の結果、権藤さん(横浜市)、大橋さん(柏崎市)、小室さん(秦野市)の3名が当選しました。おめでとうございます！

北小先生方による あつ〜い 魂の座談会

取材にご協力いただいた早川北小学校の先生方に、早川北小学校の良さ、子ども達への思いなどを伺いました。

●早川北小に赴任して、最初にどんなことを感じましたか？

保坂／ここに来る前は増穂小という県内でも人数の多い学校にいたのですが、北小に来た時に、本当に「家族」のようだと思います。長い伝統の中で縦のつながりがきちっとできているし、学校全体で動くことも多い。先生たちの間にもチームワークがあります。

安藤／今日みたいに餅つきをやるうといったら、すぐ動ける。

笠井／お米が余ってるんだけどどうしよう。じゃあ餅つきやってみようかって。

横山／大きい学校では、そんなに簡単には動けないですね。子どものほうも、学年で足並みを揃えなくてはならなかったり、みんなが同じ体験をできるわけではなかったりしますから。

●山の小さな学校で育つことが、子どもにとってどういう点でいいと思いますか？

笠井／経験値が違うんじゃないですかね。保護者や児童からよく、「大きい学校では絶対にやれないことを、ここではやれる」という声を聞きます。逆に、その子ども達にプレッシャーもあるんですけど、やれる可能性があるっていうのがいいんじゃないですかね。

安藤美由紀先生
(3年担任)

笠井和人先生
(6年生担任)

保坂清美先生
(2年生担任)

遠藤純一先生
(1年生担任)

ウィリアムズ・トム先生(英語)

昨年の夏まで早川町の小中学校で英語を教える。本座談会のために緊急来日!

横山智子先生
(5年生担任)

※先生方の担任学年は、平成19年度のものです。

トム／北小の子どもは、入学した最初から人数が少ないですね。英語の授業でも、北小の子は大きな声で、みんなの前でちゃんと話せますよ。

保坂／一人ひとりが主役になれるんです。ある程度の年齢になったらどこにいても必ず自分で何かしなくてはならない。北小の子ども達は人の陰に隠れてられない環境の中で育ってきているから、どんな場面でも力が発揮できるんじゃないかな、と思います。

高学年の児童は大変な部分もあるとは思いますが。低学年の面倒もみななければいけなくて。例えば、6年生2人が先生たちが来る前に、自分たちの力で低学年を動かしてきちんと並べたりしている。この前、スキー教室に全校でいって、1～3年生だけ先に帰ってきたんですね。いつもは給食のときに高学年が準備や片づけを率先してやるんですけど、その時は3年生が歯磨きの準備をしたり、2年生がテーブルを拭いていた。下の子どもたちもそういう姿を見ているから、いずれ自分達もあんなになきゃな、と思うんですよね。

●小さい学校ならではの苦労はないですか？人数が少ないと競争がないので、将来大変だと心配されることなどはありませんか？

笠井／私が心の支えにしていることなんです。ある保護者に「北小どうですか？」と伺ったときに、「いいよ」と言って下さって。「人数少ないですけど？」と聞いたら、横のつながりはないけれど、縦のつながりが。北小は隣の保育園の未満児さんからわらべどんぐり祭りに来てくれるおじいちゃんおばあちゃんまで、極端に言えば100歳近い人まで関わる機会があるんです。そこがいい、と。そ

ういうところで社会性を身につけていくことができる。私の中では、競争相手がいないから不利だとは言わないぞというか、絶対通じるぞと思ってやっています。

遠藤／1年生は、児童が一人しかいないんです。でも、「南小でも頑張っているんだよ」と、たくさんの人が他のところで頑張っていることを折にふれて伝えるようにしています。この場に人がたくさんいるかいなかではなくて、人がいることを想像できるかどうかだと思います。

安藤／北小の卒業生で、高校生になったとき、クラスで責任ある仕事をやることになって。ご両親が「あなた大丈夫なの」って聞いたときに、「おれは大丈夫。できるから」って言ったらしいんです。北小でなんでも自分たちでやってきたんだから、大丈夫って。

●どんな子どもに育ってほしいですか？

横山／今、経験していることを自信にして、将来やりたいところに向かっていける子どもになってほしいです。

安藤／感謝をする子どもでいてほしい。人とのつながりが大事だという、感謝の気持ちを忘れないでいてほしい。

笠井／子ども達の感謝の気持ちを伝えるということで、数年前から卒業式を地域に開放して、子ども達が関わった地域の人全員に招待状を送っているんですよ。こういう地域で育ててもらって、ああこんなにお世話になっている人がいるんだっていうのを知って、感謝の気持ちをもっていただければと思って。2年前は卒業生が一人だったんですけど、卒業式に100人以上の人が来てくれて。作る予定じゃなかったんですけど、自然に花道ができて。それから花道作るもんだって思って作るようにしていますが、温かい卒業式になりました。

今回の早川北小の取材では、自分の小学校時代と比較して、家庭や地域と学校との距離の近さに驚きました。顔が見える関係の中で、学校と家庭、地域と一緒に子どもを育てていくことは、都会の学校ではなかなか難しいことなのかもしれません。取材時に元気な笑顔を見せてくれた北小の子ども達、たくさんの人に見守られています。早川の子ども達、これからもがんばれ!

山を覗けば宝の山
やまだらけ

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町葉袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/